シリーズ 探訪 わが町文化財 番外編

野田地区遺跡出土の土器 パズルができました

土器パズル（左）と実物の土器（右）

この変わった形の土器は、何に使われたのでしょうか。高さは45センチと比較的大きなもので、上にも下にも口が開いており、物を入れたり、たくわえたりすることはできません。また、三角形や四角形の穴がたくさんあり、表面は波形の細かな模様で飾られています。

この土器は、高速道路の四車線化工事に伴う野田地区遺跡の発掘調査において発見されたもので、今からおよそ1600年前（古墳時代）に作られた須恵器（すえき）の器台（きだい）と呼ばれるものです。上部に壺などをのせる台の役割をはたした土器で、日常的に使用されるものではなく、祭りや儀式などに使われた特別な土器でした。

須恵器とは、青灰色をした硬い土器のことで、古墳時代に朝鮮半島から新たに伝わった技術でつくられた焼き物です。それまでの日本には、野焼きで焼いた赤っぽい素焼きのやわらかな土器だけでしたが、須恵器はロクロを用いて成形され、斜面を利用して築かれた登窯で1000℃を超える高温で焼かれたため、硬く、水漏れのない土器を作ることが可能になりました。

野田地区遺跡から発見されたこの土器は、日本で須恵器がつくられ始めた初期のもので、破損が少なく、貴重なものです。

実物は、地域交流センターに常設展示していますが、この度、住民の皆様に古代の文化財を身近に感じていただく機会として、実物に忠実に作り上げた立体土器パズルを作製しました。9月より地域交流センターでの体験を予定しておりますので、お越しの際はぜひチャレンジしてみてください。

●〒643-0021 和歌山県有田郡有田川町下津野2018-4
●有田川町役場総務課　TEL 0737－52－2111

VEGETABLE OIL INK